

High♥Line Wakabayashi  
**はいらいん若林**



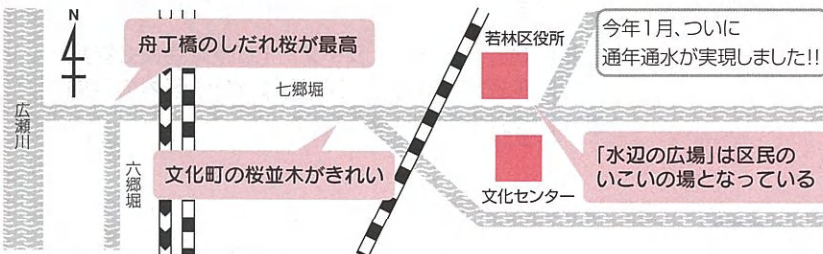
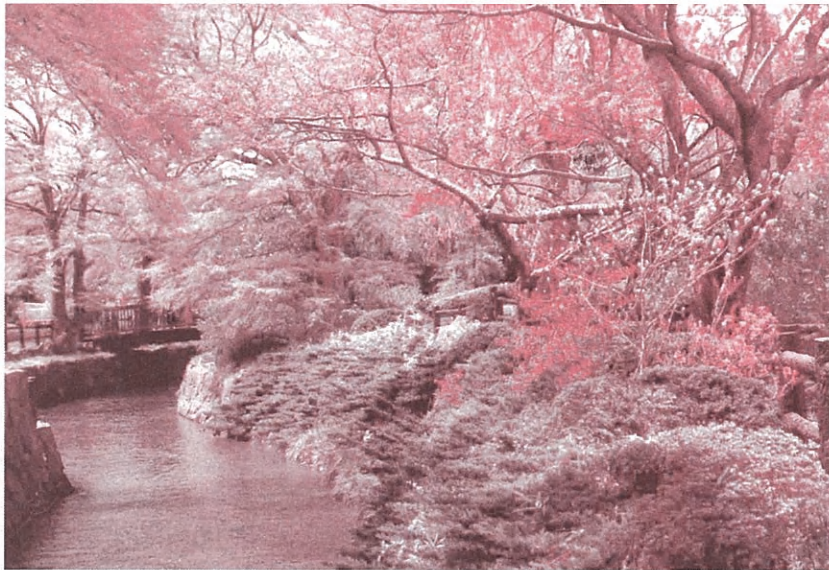
みんなでここさ

入らいん!

若林区まちづくり協議会会報

2005.2.15

Vol. **8**



六郷堀・七郷堀の見どころ

堀に沿って散歩してみると、きれいな景色を楽しむことができます。

六郷堀・七郷堀は、こうした水辺環境を愛する方々や、町内会による堀周辺の清掃、「ゴミを止める「スクリーン」を監視するボランティア、水土里ネットひがし(仙台東土地改良区)による浚渫(しゅんせつ)、農家の方々の江枒(えはらい・堀払いのこと)など、多くの方によって守られ維持されています。上流から下流まで堀と水を大事にし、みんなで潤いのあるまちづくりを進めてゆきたいものですね。

若林区は、堀の多い地域です。「春から秋にかけて、六郷堀・七郷堀に水が流れているとき、広瀬川から鯉・ウグイが迷い込み、それらを追って鴨・サギ・カラスが寄ってくる」と堰守の菊地さん。六郷堀・七郷堀の水が止められる九月に、堀の中で魚のつかみ取りをした思い出を持つのは年配の方。今は、危険だからと堀はガードされ入

りません。昭和四十年代頃、昔に比べ広瀬川の水位が低下するようになり、水田で水が必要な時期(四月下旬〜九月中旬の灌がい期)以外は、広瀬川からの水を堀に流さないようになりました。また、近辺の下水管は、汚水と雨水が同じ下水管を流れる合流式であるため、大雨が降ると下水管から汚水まじりの溢れ

た水が堀に流れ込み、水がよどんで悪臭を放つこともありました。こうしたことを改善するために再び一年を通じて堀に水を流して欲しいと町内会の方々などが行政側に陳情や要望を続けた結果、平成十七年一月に仙台市が国から水を流す権利を得、非灌がい期の通水が実現しました。昨年十月、区役所前の若林区ふるさと広場を会場に「七郷堀 水と音、光の夕べ」が開催されました。「七郷堀をはじめとする区内の堀や水辺環境に親しんでいただき、大事にしていこう」と市民の実行委員会が開催したもので

生活と川の共生 六郷堀・七郷堀

会報の愛称

「はいらいん若林」とは

仙台弁の「入らいん(お入りください)」に英語のhigh(ハイ・高い)とline(ライン・路線、進路などの意)とをかさねあわせた造語です。温かさより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

# 子どもたちの安全のために私たちができること

近年、仙台市でも、身近な犯罪が増えてきているようです。子どもたちを狙ったものも少なくありません。なぜ、今このような犯罪が増えてきているのでしょうか？その原因のひとつに、「地域の無関心」があるのではないのでしょうか。子どもたちを見守ろうというちょっとした意識を持って地域を見ることで、犯罪を少しでも減らすことができるのではないのでしょうか。今回の特集では、身近な防犯活動をいくつかご紹介します。子どもたちの安全のために、自分たちができることを、一緒に考えてみませんか。

## 散歩のついでにパトロール

ウォーキングのついで、散歩のついでにできる防犯活動があります。例えば「アイ・アイキンジョパトロール」もそのひとつです。この活動は、「歩くボランティア」として、自分の住んでいる地域を防犯意識を持って見守ることができる、自分の生活スタイルに合わせたボランティアです。現在約400名が参加しており、若林区でも約50名の方が登録しています。その中の小林与四治さんにお話を伺いました。



昨年6月、こちらのボランティアに登録しました。私は夕ご飯を食べた後、夜9時から12時頃、パトロール活動することになっています。私の住んでいる若林地区では、夜でも中学生がスーパーの駐車場にたむろしていたり、マンションの駐車場で車に傷つけられる事件がおこったりします。子どもたちには直接注意をするときもあれば、危ないと感じた時は警察に知らせることもあります。子どものなかには、注意して「分かりました」と素直に聞く子も、「何だよ」と突っ張る子もいて、こうしたやりとりのなかから逆に子どもたちのほうから学ぶことも多くありますね。



お問い合わせ／市民局市民生活課 地域安全係 TEL214-6148

## 「地域力」を高めるために

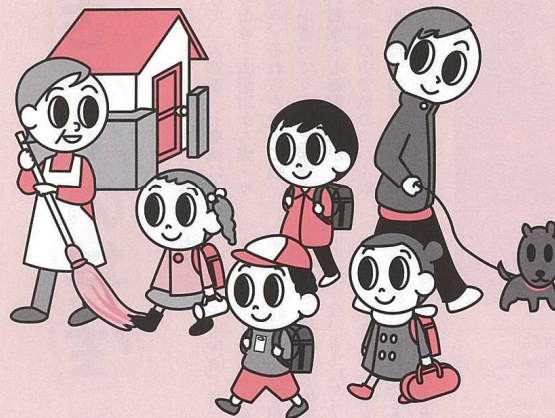
### 「わかばやし安全・安心エリア推進会議」

私たちのまちから犯罪をなくしたい、交通事故のおきにくいまちにしたい。そんな思いから、平成16年度、若林、古城を含む若林地区に「わかばやし安全・安心エリア推進会議」が発足しました。この会議には、町内会、防犯協会、PTAなどの各団体と仙台南警察署、若林区役所が参加しています。主な活動内容は、夜間パトロール、「安全・安心のまち」ポスターの作成・掲示、ビラはがしなどの環境美化活動など。こうした活動はすべて地域の住民自身の手によって行われ、警察署と区役所がそれをサポートしています。

お問い合わせ／若林区まちづくり推進課 地域振興係 TEL282-1111(代)

## 地域ぐるみで子どもを見守ろう

登下校時に合わせて、家の前の掃除、ウォーキングや、犬の散歩をすることにより子どもの安全を見守ることができます。



## 遠見塚小学校では 教頭先生に聞きました!

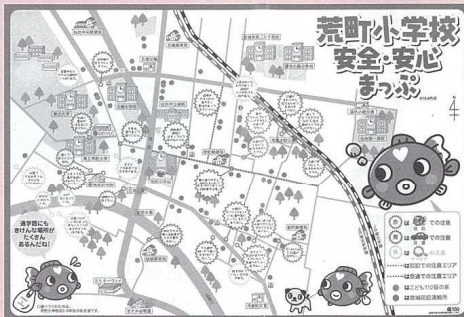
- 児童1人1人に防犯ブザーを持つように奨励しています。
- 毎月第2土曜日(原則)には教職員がグループに分かれて地区巡視をしています。また、「防犯・子ども守ろうデー」(毎月第2金曜日)のときは、できるだけ目立つように腕章をつけ「防犯・子ども守ろうデー」のぼりを活用し、不審者への抑止力となるように努めるとともに、地域住民への啓発に努めています。またPTAとも連携し、保護者が自宅付近で子どもを迎えるようにしています。
- PTAでは、「校外パトロール」のプレートを自転車に付けてお買い物をしたり、学区内危険マップを作成し、地区ごとに防犯意識を高めることに取り組んでいます。また、毎週日曜日には地区輪番で校地内の巡視を行っています。
- 今年度から「守(まも)ライダー(市教育委員会委託 学校防犯巡視員)」による学校内及び学区内の定期巡回を週2回程度行っています。

## 子どもたちは自分の安全を自分で守るためこんなことをしています。

知らない人と話すときは おたがいに手をのばしても とどかない距離をとる

防犯ベルを持っている子もおおせいいます

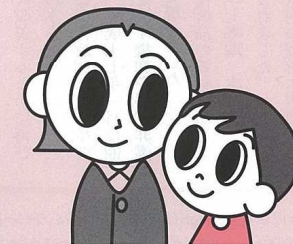
どうしたのかしら



荒町小学校の5、6年生は、人通りが少ない場所や暗い道など、地域の危険な箇所を自分たちで調べ、安全マップを作りました!

## 子どものいる家庭では

危険のパターンにはいろいろあるので、普段から、親子で繰り返し話題にして「こんなときどうしたらいいか」を子どもと一緒に考えることが大切です。



### 「我が家のルール」をつくる

- 一人では遊ばない  
子どもたちが犯罪に巻き込まれるケースで多いのは、一人で行くとき。できる限り一人では遊ばないように。
- 外出時には、必ず「誰と」「どこで」「何をするか」を家族に伝える  
外出時には必ず「行き先」を言う。
- 「何かあったら」大声で助けを呼ぶ  
日ごろから何かあったら「助けて」と大声を出せるよう、訓練を。  
また、防犯ブザーを持っている場合は、何かあったらすぐに鳴らす。
- 「何かあったら」必ず家族に話す  
危険な目にあつたなど何かあったら、必ず「今日こんなことがあったよ」と家族に話す。

### 親子で確認してください

- 地域の人通りの少ない場所や危険な場所
- 子どもがどんな道を通っているか
- 不審者に声をかけられたときに逃げ込む「子ども110番の家」の場所と助けを求める方法



▲昭和30年代を再現した店内



▲10時から4時まで行列が途切れなかった

# 地域のイベント仕掛人紹介

加藤 周一 さん



昨年9月19日、愛宕商栄会秋のイベントである「悠久の昭和・わが土樋物語」が、土樋の長谷川商店で開催されました。この催しの仕掛人をご紹介します。

何といっても昭和三十年代の駄菓子屋の再現でした。街で戦後まもなく開業し、今も現役の長谷川光子さん(七九)を担ぎ出し、店を全面改装し、かつての駄菓子屋を現代によみがえらせたのです。店内は勿論、かつての子供たちのファーストフードとも言える「どんとん焼き」の再現販売、客単価五円・十円の世界です。一日千人のお客様で、ごつた返す店内…。期間中四千人的お客様に驚いた程でした。また、商店街にある「福島美術館」の同時開催の「昭和三十年代土樋原風景写真展」や「昭和三十年代生活用品展示会」も大盛況で、「癒しの時代」といながらも、我々開催者も癒されたイベントとなりました。

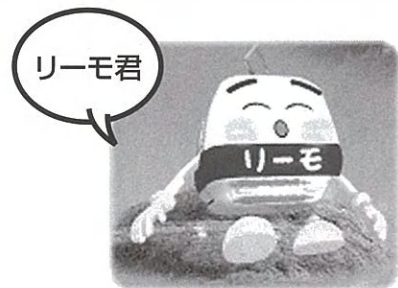
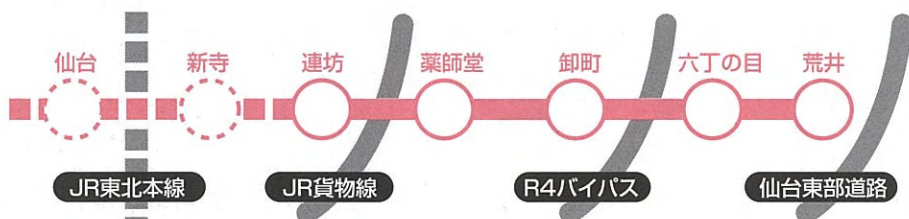
(加藤 周一)

みんなで考えるまちづくり

# 『地下鉄東西線のくるまち』

平成27年開業予定 3回シリーズ

若林区を東西につなぐ架け橋です。有効な活用ができるように、まちづくりの観点で考えてみませんか。



## 第1回 『荒井地区・六丁の目地区の周辺』

●荒井地区周辺●地下鉄東西線の終点といわれていますが、私たち区民にとっては起点と考えても良いのでは。

まちの過去: 古くからの田園地帯です。居久根(屋敷林)や用水堀が数多く見られ、冬には渡り鳥が溜め池や水田に飛来してきました。



まちの現在: 周辺は開発が進み、田園地帯から一部市街地に様変わりしてきました。北側は原町東部第三土地区画整理事業により昭和60年代に整備され、西側は新たな市街地として荒井土地区画整理事業が昭和60年代から進行しています。居住している人口も増加の傾向にあります。

まちの未来: 現在は市街化調整区域になっていますが、仙台東IC、国道4号バイパス、(都)清水小路多賀城線に近接するため、地下鉄の活用とあわせ田園地帯の環境をうまく配慮した新たな市街地の形成が期待されています。

●六丁の目地区周辺●工業のまちとして成長してきましたが、住宅系も周辺に増えてきています。



まちの過去: 昔は田園地帯だったと思われそうですが、以降仙台市内に点在していた中小機械金属製造等の工場が工業集団化事業により「仙台工業団地」を立地させ、同様に「仙台印刷工業団地」も立地し工業のまちになりました。

まちの現在: 地区を見ると、工業専用地域や準工業地域に色分けされていますが、運輸用地や最近荒井地区の整理事業による住宅地の整備も進んでおり、工業・商業・住宅が混在しているまちになっています。

まちの未来: 周辺の工業や流通の施設も様変わりしていくのにあわせ、商業や居住機能を充実させることにより、交通の利便性がよい職住近接の良好な市街地として形成されるのが期待されます。特に雨水や浸水等の災害に強いまちづくりが求められます。

※詳しくは仙台市のホームページで<http://www.city.sendai.jp/toshi/touzaisenhousei/gaiyou/index.html>

## 若林区まちづくり協議会

..... 事務局 .....  
若林区役所まちづくり推進課  
〒984-8601 若林区保春院前丁3-1  
TEL282-1111

## 会報プロジェクトメンバー

リーダー 勝 又 久 雄 / 師 岡 優 子  
西 條 芳 郎 / 斎 野 明 子  
菅 井 てる み / 本 多 や 糸 子

編集後記 初めて編集会議に参加させていただきました。今回の特集は「子どもたちの安全について」でしたが、個人や地域でボランティアとして活動をしている方が多くいらっしゃることに驚きました。今後も楽しく親しみやすい記事をつくっていきたいと思いますので、よろしく願います。(T)